

8 課

8月22日

イエスのように仕える



安息日午後 8月15日

暗唱聖句

また群衆が飼う者のいない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれました。(マタイ9:36、口語訳)

また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれました。(マタイ9:36、新共同訳)

今週の聖句

マタイ5:13、14、フィリピ2:15、マルコ12:34、エフェソ4:15、
マタイ4:23~25、マタイ25:31~46

今週のテーマ

イエスは心から人々を気遣われました。ご自分のことよりも、人々の心配や必要に関心を寄せられたのです。イエスの生涯は、何から何まで、ほかの人たちが中心であり、その一生は愛情深い^{あわ}憐れみの奉仕でした。イエスは周囲の人々の肉体的、精神的、感情的な必要を満たされ、その結果として、人々の心は彼が教える霊的な真理に開かれました。彼が重い皮膚病の人を治し、目の不自由な人の目を開き、耳の聞こえない人の耳を聞こえるようにし、悪霊を追い出し、飢えている人に食べさせ、貧しい人たちの面倒を見られたので、人々の心は感動し、彼らの生き方は変わったのです。

イエスの教える霊的な真理に人々が心を開いたのは、彼の純粋な気遣いを見たからでした。「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間として歩まれた間、救い主はその人たちの利益を図られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして、『わたしについて来なさい』とご命令になった」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 新装版』88ページ、一部変更)。福音は、この世に宣べ伝えられる必要がありますが、それと同じくらい、この世で実践される必要があります。イエスはそのことを認識しておられました。他者への奉仕に献身するキリストのような生き方という生けるあかしは、私たちが語る言葉の力強い証拠であり、私たちのあかしに真実味を与えます。

イエスはいつも、ほかの人の長所を探し、彼らが持っている最も良いものを引き出されました。当時の宗教指導者たちがイエスを批判したことの一つは、彼が「罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」(ルカ15:2) ことでした。宗教指導者たちが気をもんだ(憂慮した)のは、イエスが「罪深い人たち」と交わったからです。彼らの宗教観は、関与する宗教ではなく、疎外する宗教でした。彼らは、イエスがご自分について、「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」(マタ9:13)と言われたとき、驚いてしまいました。

律法学者、ファリサイ人、サドカイ人たちの宗教は、避ける宗教でした。彼らは、「罪に染まらないために、できることを何でもせよ」と考えました。イエスの教えは、著しく異なりました。この世という蛇の穴に彼が飛び込まれたのは、それを救うためであって、避けるためではありませんでした。イエスは「世の光」(ヨハ8:12)なのです。

問1 マタイ5:13、14を読んでください。イエスはご自分に従う者たちを表現するために、どのような二つの言葉を使われましたか。イエスはどのようにこの言葉を使われたのだと、思いますか(ヨハネ1:9、12:46、フィリ2:15も参照)。

新約の時代において、塩はとても重要でした。極めて貴重だったので、時としてローマ軍はそれを通貨として用いました。塩は価値の象徴であり、食べ物の保存や味つけにも用いられました。イエスがご自分に従う者たちを象徴するために塩という実例を使われたのは、この世で本当に価値あるものは、権力者や富豪ではないと、言っておられたのです。この世で本当に価値あるものは、神の国をつくるために良い影響を与えている献身したクリスチャンです。彼らの愛情深い無私の奉仕の行動は、この世の良いところを保ち、この世の雰囲気にも味を付けます。

イエスが(マタ5:14で)使われた二つ目の実例は、「世の光」でした。光は闇を避けません。闇の中で輝きます。光は闇から離れることなく、闇の中に入り込み、闇を明るくします。イエスに従う者たちは、自宅の周辺で、村で、町で、都市で、この闇の中に入り込み、神の栄光で周囲を照らすべきなのです。

ヨハネ17:15~18のイエスの言葉を考慮に入れると、この世から分離すること、この世を避けることを、私たちはどのように理解すべきですか。両者は同じことですか。イエスはどのような意味で、ご自分に従う者たちはこの世の中に残るが、この世のものではないと祈られたのでしょうか。そうであるために、私たちはどうしたらよいのでしょうか。

イエスが目指されたのは、人々の最も良いところを引き出すことでした。状況が非常に厳しいときでさえ、イエスは恵み深い態度で応じられました。ルカによる福音書は、群衆が「その口から出る恵み深い言葉に驚い……た」（ルカ 4:22）と記録しています。またヨハネによる福音書は、「恵みと真理はイエス・キリストを通して現れた」（ヨハ 1:17）と付け加えています。イエスは敵意を取り除くような仕方では人々に近づかれ、その恵み深い言葉は、彼らの心の琴線に触れたのです。

問2 マタイ 8:5~10、マルコ 12:34 を読んでください。思いも寄らぬ2人の人（ローマの百人隊長と律法学者）に、イエスは希望に満ちたどのような言葉をおかけになりましたか。

ローマ軍の指揮官にイエスが語られた言葉は、画期的なものでした。イエスが、イスラエルの中にさえこれほどの信仰を見たことがないと言われたときに、この職業軍人が感じたにちがいないことを想像してみてください。またイエスが、「あなたは、神の国から遠くない」と言われたときに、あのユダヤ人律法学者がどう思ったかを考えてみてください。イエスは、人々の最も良いところを引き出す能力を持っておられました。人々の心を福音に開かせるのに、ほめ言葉ほど役に立つものはめったにありません。あなたの周囲にいる人の良いところを探し、あなたがそれらを高く評価していると伝えてください。

問3 イザヤ 42:3、コロサイ 4:5、6、エフェソ 4:15 を読み比べてください。これらの聖句は、私たちの信仰をほかの人に伝えることについて、また彼らとの付き合いについて、どんな重要な原則を教えていますか。

私たちの言葉が励ましと恵みにあふれているとき、それらはほかの人の生き方に良い影響を及ぼします。イザヤの預言の言葉は、イエスが「傷ついた葦を折ることなく／暗くなってゆく灯心を消すこと」もないであろうことを明らかにしています。言い換えれば、イエスは思いやり深く、信仰に近づきつつある人を不用意に傷つけたり、彼らの心の中のわずかな信仰の残り火を消したりしないように注意されたということです。

“どのように言うか” ということは、“何を言うか” ということと同じくらい、大切です。あるいはもっと重要かもしれません。なぜ、そうなのでしょうか。

私たちの主の伝道方法は、暗記した話やあらかじめ用意された説明などの域を超えていました。それは命そのもののように、豊かで生き生きとしたものでした。私たちは毎日、さまざまな（肉体的、精神的、感情的、霊的な）必要を抱える人々と一緒にいます。キリストは、私たちを通してそれらの必要を満たしたいと願っておられます。私たちが人々の寂しさ、悲しみ、心の痛みを気遣い、彼らの喜び、望み、夢に関心を示すことによってです。

イエスは人々の切実な必要に応えることで、最終的に彼らの最も深い必要を満たすことができになりました。切実な必要とは、人々が自分の力では解決できないとすでに感じている生活の領域のことです。それは、禁煙すること、体重を減らすこと、より良い栄養を摂ること、ストレスを減らすことかもしれません。あるいは、食事、住居、医療に関する必要、結婚カウンセリングや家族カウンセリングの必要かもしれません。

しかし究極の必要は、人類が最も必要としているもの——つまり、神と個人的な関係を持つことの必要と、自分の命が永遠にわたる重要性を持っていることに気づくことの必要です。壊れた世界で神と和解することが、私たちの究極の必要なのです。

問4 マタイ9：1～7の歩けない人と、マルコ5：25～34の出血の病氣を持つ女の物語を読んでください。これらの物語のどこで、イエスは肉体的いやしが、神との和解という究極の必要を満たす助けになると、感じていたことがわかりますか。

キリストのいやしの働きには、心身のいやし以上のものが含まれていました。イエスは、罪によって損なわれてしまった全人的健康を人々に体験してほしいと願われたのです。キリストにとって、霊的いやしのない肉体的いやしは不完全でした。もし私たちが神の愛に動機づけられてだれかの心身の健康を願うとしたら、その人がこの世で（また、永遠にわたって）人生を精一杯生きられるよう、霊的健康のほうをもっと願うことでしょう。結局のところ、イエスがおいやしになった人はみな、最終的に亡くなりました。ですから、彼らの真の必要は、何にも増して、霊的なものでした。そうではなかったでしょうか。

私たちの教会は、人々の必要を満たし、私たちが彼らを心から気遣っていることを具体的に示すために、どのようなことを率先してできるでしょうか。あなたの地域社会にいる人々のことを考えてください。人々の生活を変えるために、あなたが所属する教会は、どのようなことをしていますか。

問5 マタイ 4：23～25、9：35 を読んでください。どのような三重の方法が、イエスの働き的基础になっていましたか。彼はどのように人々の必要を満ちし、それはどのような影響を彼らの生活に及ぼしましたか。

イエスは、「教えること」「宣べ伝えること」「いやすこと」という三重の働きを同時に行われました。彼は、私たち全員が意味と目的のある人生を送れるように、永遠の原則を教えてくださいました。「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」(ヨハ 10：10) と、イエスは言われました。彼の働きは、あり余るほど豊かな恵みを明らかにしました。そして、彼が来られたのは、「あり余るほど豊かな」人生を私たちが今も、また永遠に、送ることができるようにするためでした。

問6 マルコ 1：32～39 を読んでください。1日中、イエスは病人をいやし、悪霊を追い出されました。翌朝、祈って時間を過ごされたあと、さらに大勢の人がさらなるいやしを求めてやって来たとき、イエスは別の町に向かってしまわれました。なぜ主は人々をいやされなかったのでしょうか。38、39 節に理由がありますか。

この物語は示唆に富んでいます。前日に大勢の人をいやしたあと、イエスは翌日、彼を捜し求め、さらにいやしを必要としていた群衆を置き去りにされます。イエスは、ご自分がこの世に来られたのは福音を宣べ伝えるためだ、と説明なさっています。イエスは、単に目を見張るような奇跡を起こす人ではありませんでした。あがないの使命を帯びて来られた聖なる神のみ子でした。肉体的な病をいやすことだけに、彼は満足なさらなかったのです。彼は、ご自分が与えなければならない永遠の命という賜物を人々に受け取ってほしいと願っておられました。次のような言葉で、イエスはご自分が地球においてになった目的を述べておられます——「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」(ルカ 19：10)。一つひとつのいやしの行為は、神のご品性を明らかにし、苦しみを和らげ、永遠の命を得るチャンスを提供するための機会だったのです。

もしあなたが貧しさに苦しんでいたり、病気があったりしたら、イエスが与えてくださる豊かな人生を送ることができるでしょうか。イエスは、肉体的いやしよりも深い何かを人々に提供されましたか。人々の心身の必要に応えるとき、私たちはどのようにして彼らを霊的な真理へ導くことができるのでしょうか。

マタイ 24 章でイエスが弟子たちにお伝えになったメッセージは、エルサレムの崩壊に関する出来事と、再臨前の時代に関する出来事が混じり合っており、そのあとに、終末の三つのたとえ話が続いています (25 章)。これらのたとえ話は、再臨を待っている人々に対してイエスが本当に重視しておられる品性を説明しています。10 人のおとめのたとえ話は、純粹で、正直で、“靈”にあふれた生き方の重要性を強調し、10 タラントンのたとえ話は、私たち 1 人ひとりに神から与えられた賜物を忠実に用いることの重要性を強調しています。羊と山羊のたとえ話は、神が日々私たちの生活の中で合わせてくださる人々の必要に心から応える本物のキリスト教を明らかにしています。

問7 マタイ 25 : 31~46 を読んでください。イエスは真のキリスト教を、どのように描いていますか。この箇所に書かれている奉仕の領域を列挙してください。

このたとえ話は、人々の純粹に肉体的な必要（私たちが見逃すことのできない側面）を満たすことについて語っていますが、ここにはそれ以上のことがあるのではないのでしょうか。満たされたいと願っている人間の魂の内には、イエスに対する密かな飢えや渇きがあります（ヨハ 6 : 35、4 : 13、14）。私たちはみな、キリストにおいて自分の真の姿を見いだすまでは、故郷を恋しく思う寄留者であり（エフェ 2 : 12、13、19）、キリストの義の衣を着るまでは、靈的に裸なのです（黙 3 : 18、19 : 7、8）。

旧約聖書の預言者たちは、人間の状態を救いようがないほど病んでいるとしばしば表現しています（イザ 1 : 5、エレ 30 : 12~15）。罪という病は致命的ですが、預言者は私たちに治療法を教えています。「さあ、わたしがお前の傷を治し／打ち傷をいやそう、と主は言われる」（エレ 30 : 17）。イエスが、私たちの魂の命を脅かす病に対する治療法なのです。

羊と山羊のたとえ話は、周囲の人たちの肉体的な必要に応じるよう、私たちに勧告していますが、そこにはそれ以上のことが含まれています。これは、魂の最も深い必要を満たされるイエスの物語であり、彼と組んで私たちの周囲にいる人たちを助けなさいという招きなのです。自己中心な人生を送り、人々の肉体的、精神的、感情的、靈的な必要を無視することは、永遠に失われる危険を冒すことです。このたとえ話の中で、自分自身よりも何かのために人生をささげる人は主にほめられ、永遠の世界に迎え入れられていますが、自分の利益を追求し、ほかの人の必要を無視する人たちは、主によって非難されています。

「多くの人が神を信ぜず、人に対する信頼を失っているが、情け深い行為や助力には感謝をする。世俗的な賞賛や報酬の目当てなしに、こうした人の家庭に来て、病める者を看護し、飢えた者に食を与え、裸である者に着せ、悲しむ者を慰め、また、キリストの愛と憐れみを優しく示して、人は神の使者にすぎないことを表す時、彼らは、こうしたことから心を動かされる。そして、感謝の念が起これると共に、信仰の火がともされる。さらに神が、自分たちを守っておられることを悟り、み言葉が教えられる時に耳を傾ける気持ちになる」(『ミニストーリー・オブ・ヒーリング 新装版』89、90 ページ)。

イエスの無私の奉仕は、心を開き、偏見を砕き、福音を受け入れる素地をつくりだします。どこにある教会も、愛によって必要を満たすキリストの体です。キリストは、み名において変化をもたらすよう、私たちを地域社会へ遣わされます。確かに、この世によって汚されないように注意する必要があります(私たちの教会にとって、それは非常に現実的かつ危険な脅威なのです)が、それでもなお、私たちは人々のいる場所で人々に手を差し伸べ、神に用いられることを学ばなければなりません。神は彼らを、今いる場所から、彼らが本来いるべき場所へ移すことを望んでおられるのです。

話し合いのための質問

- ① キリストの情け深い働きには、なぜ偏見を砕き、霊的な真理に対して人々の心を開かせる力があつたのですか。キリストと同じように、もし私たちが無私の関心を人々に寄せるなら、私たちのあかしがどれほど効果的なものになるか、想像してみてください。
- ② いやされた人も、死から生き返らされた人でさえも、最終的にみな死ぬということについて、さらにじっくり考えてください。私たちはこのことから、周囲の人々に対する伝道の仕方や奉仕の仕方について、どのようなことを学ぶべきですか。
- ③ あなたが所属する教会は、現在行っていないどのような種類の奉仕活動を近隣社会で始めることができますか。
- ④ 私たちは、切実な必要に応える奉仕を通じて、求めている人たちのための霊的な機会をどのように生み出すことができるでしょうか。